

桑野小学校  
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①「ユニバーサルデザインの視点を活かした分かりやすい授業の構築」
- ②「すべての学習活動における各学年の発達段階に応じた言語活動の充実」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長 教頭 教務主任 特別支援教育コーディネーター 研修主任	武田 国宏 福島 幸子 米田 文香 久保 訓子
	小堀 訓子		

校長  
武田 国宏 印

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 与えられた学習課題にはまじめに取り組むことができ、漢字の読み書きや基本的な計算については、70～80%程度の定着が見られる。	①基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ②理解・使用できる語彙を増やし、内容や要旨をとらえながら読んだり、目的や意図に応じて書いたりできる。	①各学級の80%以上の児童が、単元テストにおいて、正答率を80%以上にする。 ②大事なことを的確に聞く、読む、考えたことや伝えたいことを的確に話す、書くことができる児童を各学級で90%以上にする。	各教科や総合的な学習の時間、学級活動等において、話し合い活動を積極的に組み込む。	○研究授業の事前指導案検討会を実施し、ユニバーサルデザインの視点を活かし、より効果的な指示・情報伝達の視覚化や焦点化を意識して取り組んだ。 ○朝のドリルタイムでの反復学習の実施等により、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図った。	○各学年とも落ち着いて学習に取り組む、基礎的・基本的な知識や技能の定着・向上に確実な成果が見られた。 ○聞く活動の後に確認の質問をしたり、感想を書いたりする活動を多く取り入れることにより、大事なことを的確に聞くとする意識は高まってきた。
課題 学習の積み重ねが難しく、知識・技能の定着が困難な児童がどの学年にもいる。語彙数が少なく問題を読み取る力や文章を書く力が弱い。	具体的方策(教員の取組) ①授業において、ユニバーサルデザインの視点を活かした指示の出し方や板書の工夫を図る。 ②子どもの実態に即した課題解決的な学習を取り入れた単元を開発し、目的や意図に応じて必要な情報をとらえながら読む活動を充実させる。	取組指標 ①研究授業の学習指導案において発問・板書計画を立案し、授業研究会で検討する。 ②1週間に2回、朝の活動を国・算のドリルタイムとして実施する。		評価 B ○子どもの実態に即した課題解決的な学習・探究学習を取り入れた単元を開発し、目的や意図に応じて必要な情報をとらえながら読む活動を充実させる。 ○各教科、学級活動、総合的な学習の時間において、考えたことや伝えたいことを的確に話す活動を積極的に取り入れる。	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 学級の中だけでなく、全校朝会や様々な集会等においても、自分の考えを最後まではっきりと伝えることができる児童が多い。	各教科、学級活動、総合的な学習の時間において、目的に応じた必要な情報を収集・整理・分析して、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを豊かに表現することができる。	「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが得意」と答える児童の割合を80%以上にする。	取組の継続	○ホワイトボードやタブレット端末を活用したペア学習・小集団学習を積極的に取り入れ、話し合う場や調べ学習の活動を設定した。 ○自分の考えや意見を発表する際に、その根拠や理由を明確にして話すよう指導した。	○意見を述べる際、理由や根拠を明らかにしながら自分の考えを話すことが習慣化されつつある。 ○課題解決的な学習・探究学習への児童の取組が意欲的であった。
課題 自分の考えの基となる情報を収集したり、整理・分析したりする力が弱い。自分の考えの根拠や理由を明確にして、筋道を立てて文章で表現することに課題がある。	具体的方策(教員の取組) ①課題解決的な学習・探究学習を積極的に取り入れる。 ②すべての学習活動の中に、ホワイトボードやタブレット端末を活用したペア学習・小集団学習を積極的に取り入れ、「聴く・読む・書く・話す」活動を充実させる。	取組指標 各学年の発達段階に応じた課題解決的な学習、言語活動の充実という視点を踏まえて、1人年1回以上研究授業を行う。		評価 B ○目的意識を持ち続けて学習に取り組むことができるような課題解決的な学習・探究的な学習の単元を開発する。 ○理由や根拠を明らかにしながら自分の考えを話すだけでなく、より論理的に表現する力を育成する学習活動を展開する。	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 与えられた学習課題や家庭学習にまじめに取り組む、ほぼ100%の児童が課題の提出ができています。	①日々の授業や家庭学習に積極的に取り組むことができる。 ②学校や家庭で、進んで読書をする習慣が身に付いている。	①毎月の「家庭学習の手引き」に示されている家庭学習のテーマの達成率が90%以上 ②学校図書館からの図書貸出数が年間30冊以上の児童が全体の80%以上	毎月「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習のテーマについての指示・指導を継続し、家庭での望ましい時間の過ごし方の習慣化を図る。生活科・総合的な学習の時間の学びを家庭での読書につなげる。	○毎月「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習のテーマとして様々な学習方法を提示し、習慣化を図った。 ○毎月「家庭読書の日」を設定した。	○毎月の「家庭学習の手引き」に示されている家庭学習のテーマに積極的に取り組む児童が増えてきた。
課題 自ら課題を見つけて自主的に学習に取り組むことが苦手である。読書の習慣が十分身に付いていない。	具体的方策(教員の取組) ①授業において、児童が主体的に課題解決・探究することができる場を設定する。 ②毎月「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習として取り組むテーマを提示・指導し、家庭での望ましい時間の過ごし方の習慣化を図る。	取組指標 ①がんばって授業に参加しているという児童の割合を90%以上にする。 ②月1回以上、家庭学習のテーマを提示・指導する。 ③毎月1回「家庭読書の日」を設ける。		評価 C ○毎月の「家庭学習の手引き」の内容を検討し、より児童が意欲的に取り組みたいと思えるようなテーマを設定し、自分で学ぶ楽しさを味わえるようにする。 ○児童が自主的に調べたり、探求したりしたことを発表できる場を設定し、児童の主体的な学習活動を推進する。	次年度における改善事項

平成28年度 学力向上ロードマップ



